

具体的な学校経営目標		①安心・安全な学校環境 自律性と規範意識を伸ばさせ、健やかに学校生活を過ごせることができる環境づくりを目指す ②地域との連携（連携強化） 特別活動、総合的な探究の時間、社会貢献・国際交流活動や部活動等を通して校内外との連携強化を図り、主体性、合意形成力や非認知能力の育成を目指す ③生きる力（学びの充実） 学びのメタ認知化と「主体的・対話的で深い学び」の推進を組織的な授業改善により、真に「自立した人間」に求められる学力を向上させるとともに、生徒が各自で見定めた進路の保障を目指す ○チーム津商 生徒の「伴走者」として寄り添い、ともに学ぶ教職員集団になることで、各課・科・学年団等の目標の効率的実現を目指す		
		教務課	生徒指導課	
今年度の具体的な目標	(1) 津商生一人ひとりが本校に通うことに誇りを持ち、中学生・地域の方々から「通いたい学校」「必要とされる学校」になる。①② (2) 新学習指導要領実施・GIGAスクール(1人1台端末の導入等)の本格実施のなかで、必要となる知識・スキルの機会を設定する。②③	(1) コロナ予防とのバランスを図り、生徒の主体的な活動の場である生徒会行事が安全に充実した実施となるよう導く。①②③④ (2) 生徒指導を「ルール(法律・校則)を守り、マナー・モラルを身につけ、良好な人間関係を築くことができる大人になるための教育の一環」ととらえ、落ち着いたある学校環境づくりを目指した服装・頭髪指導、交通指導、ルール・マナー指導(携帯電話等の扱いを含む)等を全教員共通理解のもとで行うとともに、生徒会・各種委員会との良好な協力関係を築く。①④ (3) 「学校生活を考える会」を中心に校則の在り方を考える。①④		
現状分析	(1) ・「津山商業に進学させて良かった」…95.8%〈保護者〉 「学校生活が充実しており満足している」…91.1%〈生徒〉 ・「積極的に学校PRを行っていると感じる」…94.2%〈生徒〉 93.6%〈保護者〉 毎日のHP(ブログ)更新を継続しており、アクセス数は全県立学校(75校)中10位前後にあり、堅調に推移している。 ・12/1 現在進学希望1.11倍、1/10 現在1.13倍→一般入試倍率1.28倍 ・美作地区の中学生 令和3年度を100とすると、令和5年度98・令和6年度95、令和7年度90と大幅な減少が予想され、対策を前倒して実施する必要がある。 (2) ・「創意工夫した授業を行っていると感じる」…92.2%〈生徒〉 「「津商授業3」の取組を活かし、授業の工夫改善に取り組んでいると感じる」…90.6%〈生徒〉 97.6%〈教職員〉 「Wi-Fiと1人1台端末を積極的に活用した授業を行っている」…77.5% ・2学年に1人1台端末が導入されるとともに、PBLや地域連携なども求められるようになってきている。	(1) (2) (3) 学校教育診断結果によるR元年度からR3年度の3か年比較。 ●生徒対象 ①けじめある学校生活を送れている 81.1%→78.8%→91.7% ②社会のルールやマナーを守っている 88.7%→90.4%→96.2% ③あいさつを積極的にする 83.8%→83.9%→86.3% ④人権及び命の大切さを考える機会がある 69.4%→83.9%→91.3% ●保護者対象 ・望ましい生徒指導ができている 70.9%→76.3%→88.8% ●教員対象 ①スマホ・携帯電話等によるネットトラブルに関わる講演会や研修を行い防止に努めている→90.2% ②マナー教育を十分に行っている 75.0%→59.0%→90.0% ③個人情報保護や人権を尊重する姿勢で生活指導にあたっている →100% (1) (2) (3) 「規範意識の低下」、「安易な考え」、「コミュニケーションスキルの未熟さ」に起因すると思われる問題行動やトラブルが見受けられた。また、怠学傾向の生徒も微増した。		
具体的な計画	(1) 入学時点で広報アンケートを実施し、中学生が考える本校の魅力や志願動向の把握を行うことで、例年の広報・PR活動の見直し・改善につなげる。昨年度オープンスクールが新型コロナの影響で2度の順延を余儀なくされたことから、時期を早めて実施する。また、学校運営協議会や津商進学説明会などの機会をとらえ、保護者・地域の本校に対する期待を把握し、共有を図る。 (2) ICTの習熟度など教員間に差がある中で、画一的な研修ではなく小規模での企画を多く持ち、ニーズに応じた形式にしていく。また、新教育課程における指導・評価などについて、学力向上委員会と協働して研修機会を設ける。	(1) 他校の情報も収集し、音楽祭、自彊祭を中心とした生徒会行事の計画・立案・実施のバックアップをする。 (2) ・生徒会・各種委員会・教員が連携し、校門でのあいさつ運動や交通指導に取り組む。 ・携帯電話等の使い方(SNS利用も含む)など、マナーの向上について、様々な角度から生徒自身が考える機会を複数回設定する。 ・自転車点検・駐輪場点検を定期的に行い、交通マナーの意識向上を図る。 (3) 学校生活を考える会を5回以上実施し、生徒の参加機会を確保する。		
今年度の達成基準	(1) 学校自己診断において「広報・PRに係る項目」に関する項目について、保護者・生徒ともに肯定的意見が、昨年度と同等の値となる。 (2) 学校自己診断において「授業の工夫・改善」に関する項目について、保護者・生徒・教職員ともに肯定的意見が、昨年度と同等の値となる。 学びの変容アンケート「1人で端末を活用した授業を行うことができる」…80%	(1) 音楽祭、自彊祭の事後アンケートにおいて肯定的意見が80%以上となった。 (2) ・現状分析で挙げた学校教育診断結果の肯定的意見が概ね80%となった。 ・生徒会・各種委員会と連携し、毎日(検査1週間前及び検査日を除く)、教員または生徒が校門であいさつ運動等に参加した。 ・携帯電話等の使い方(SNS利用も含む)について、生徒が考える機会を各学期1回実施できた。 ・月1回(8月を除く)の自転車点検・駐輪場点検で実施率が90%以上となった。 (3) 学校生活を考える会を5回以上実施し、より良いルール作りに向けての話し合いができた。		
中間達成状況と改善点	(1) 入学時点のアンケート(回答94件)をもとに広報活動の改善を行った。 ・学校案内…学科選びチャート、検定取得のメリットを☆で表現 「生徒の1日」を入れるなど、他校の良い点を取り入れた →OSアンケート「学校案内の印象」肯定的評価91.3% ・オープンスクール…未参加中学生向けにビデオ収録(後日UP予定) 学科の特色・違いを出した体験講座 →申込:7/22(金)中学生203・保護者86 8/22(月)中学生188・保護者98 <昨年度 中学生225・保護者107> ・学校自己評価(中間):「広報・PRに係る項目」生徒95%、教職員97% 今後も教員の負担軽減を図りつつ、生徒保護者のニーズをくみ取りながら、必要とされる情報の発信を継続したい。 (2) 学校自己評価(中間):「授業3を活かす授業改善」教職員90%・生徒87% 「Wi-Fi・1台端末を活用した授業実施」教職員94% 「ICT・グループワークなどの創意工夫」生徒94% 新課程での1学期の総括評価を踏まえ、先生方の「困り感」などを把握しながら、早期に情報共有・研修機会を設けたい。	B	(1) 自彊祭は音楽祭代替行事を含めて3日間開催となり、現在準備段階である。体育の部で3年生保護者のみの公開とし、コロナ対応が大きな課題となる。 (2) 学校自己評価(中間)で現状分析で挙げた項目の肯定的意見が概ね90%前後となった。 生徒会・各種委員会と連携し、1学期はほぼ毎日(検査1週間前及び検査日を除く)、教員または生徒が校門であいさつ運動等に参加した。 携帯電話等の使い方(SNS利用も含む)について、インターネットモラル教室を6月に実施し、生徒が考える機会を確保した。生徒・保護者から反響があった。2学期当初は各クラスで実施する予定。 月1回(8月を除く)の自転車点検・駐輪場点検で実施率が90%以上となった(4月87.1%・5月96.4%・6月91.1%・7月87.1%)。やや低い1年生の意識を向上させたい。 正門での指導や登校指導など学校全体での取り組みが数字に繋がっていると推測されるが、校則の取扱いなど課題も多く、各方面で話し合いを進めていきたい。 (3) 学校生活を考える会を1回のみの実施。自彊祭終了後の2学期以降で活発化させたい。	B
最終達成状況と評価	(1) 「オープンスクール・HPなどを活用して、積極的に学校PRを行っている」…肯定的評価:95.0%(R3 94.2%)〈生徒〉93.6%(R3 93.6%)〈保護者〉97.0%(R3 95.0%)〈教員〉 2回実施したオープンスクールは、昨年(1回)と比較し参加者が倍増。特に平日にもかかわらず保護者185名に参加いただいた。コロナ禍前の令和元年と比較しても58.9%増(生徒34.8%増・保護者146.7%増)であり、中学生・保護者の関心の高さが感じられた。参加者の満足度は94.4%(R3 96.8%)で全体的に高めに推移している。 「保護者や地域の方々为学校の様子を知る機会を多く設けている」…肯定的評価:85.0%(R3 81.0%)〈生徒〉76.0%(R3 62.0%)で上昇傾向にあるものの、改善の余地がある。 (2) 「授業3の取組を活かす授業改善」教職員95%・生徒87%(R3 90.6%) 「Wi-Fi・1台端末活用した授業」教職員92%(R3 78%)・生徒95%(92.2%) 個別対応による支援・サポートに留まっており、また研修機会についても計画はしていたものの現段階では未実施である。	B	(1) コロナ対策をしながら、自彊祭は音楽祭代替行事を含めて3日間開催とし、体育の部で3年生の同居する保護者のみの公開した。可能な限り、コロナ禍前の実施状況に戻していく努力を生徒・教員が知恵を絞りながら実施できた。生徒を対象とした事後アンケートでは「自彊祭全体を通しての満足度」の肯定的意見が89%となり、一定の成果を上げることができた。 (2) 学校自己評価アンケートでも現状分析で挙げた項目の肯定的意見が概ね90%を超える結果となった。ほぼ毎日、教員または生徒が校門で挨拶運動に参加した。2学期当初にインターネットモラルに関するLHRを各クラスで実施した。自転車点検・駐輪場点検では2学期の実施率が約83%にとどまり、平均では87%となった。 学校全体での取り組みが定着し、数字に繋がっていると推測される (3) 学校生活を考える会を7回実施。頭髪や防寒着の着用の方針など、前向きな話し合いができた。	B
今後の課題	今年度、はじめて「生徒募集に係るアンケート」を実施したが、来年以降も継続実施して、中学生の進路選択意向や判断材料などについて収集していき、戦略的な広報活動を展開したい。また、ウィズコロナ下の学校行事再開を見据えて、公開授業週間期間の拡大など保護者が来校できる機会拡大を図りたい。 研修機会の確保について、1人1台端末を全学年所持し、新課程移行2年目になることから、教科単位の取り組みを全校に広げる形で推進していきたい。		・音楽祭の実施が来年度も不透明な状況。自彊祭への統合も視野に入れながらの協議が必要。 ・令和5年4月1日から自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務化されるため、今までの交通指導に加えた指導方針の作成が急務。 ・校則の見直しが全国的に広がっている。本校では昨年度から学校生活を考える会で生徒と話し合いを進めているが、生徒の意見・要望を絶えず検討していきたい。	

具体的な学校経営目標		進路指導課		保健厚生課	
<p>①安心・安全な学校環境 自律性と規範意識を伸長させ、健やかに学校生活を過ごせることができる環境づくりを目指す</p> <p>②地域との連携（連携強化） 特別活動、総合的な探究の時間、社会貢献・国際交流活動や部活動等を通して校内外との連携強化を図り、主体性、合意形成力や非認知能力の育成を目指す</p> <p>③生きる力（学びの充実） 学びのメタ認知化と「主体的・対話的で深い学び」の推進を組織的な授業改善により、真に「自立した人間」に求められる学力を向上させるとともに、生徒が各自で見定めた進路の保障を目指す</p> <p>○チーム津商 生徒の「伴走者」として寄り添い、ともに学ぶ教職員集団になることで、各課・科・学年団等の目標の効率的実現を目指す</p>					
今年度の具体的な目標	<p>・進学や就職に必要な基礎学力の向上をベースとし、非認知能力を高めるための指導体制を構築する。これにより、自分の強みを十分に生かした「志望づくり」および「進路実現」を目指す。③</p> <p><重点ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートの活用（学力+8つの力の伸長） ・生徒の多様な進路希望への対応 ・学年学期ごとの進路目標の意識 			<p>安心・安全で健やかな学校づくり</p> <p>(1) 感染症対策の継続。心身ともに健康で、主体的に健康管理ができる生徒の育成。</p> <p>(2) 個々の防災意識の高揚を図ることにより地域社会の防災につなげる。</p> <p>(3) いつでも、どこでも快適な環境であることを目指し、美化意識の啓蒙を推進。</p> <p>(4) 生徒・保護者に寄り添った相談援助を行い、安定した学校生活を送る体験を通して、生徒自身の自己開示力を育成する。</p>	
現状分析	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートの意義や活用場面等、基本事項の共通理解が不十分である。 ・学期ごと・行事などの振り返りは積極的に行われている。しかし、それが進路決定につながる自己分析などに十分生かされているとはいえない。 ・自己分析や学部学科研究、企業研究が不十分なまま進路選択をする生徒もおり、ミスマッチの一因となっている。 ・基礎力診断テスト・実力診断テストに向けた、「事前学習—受験—振り返り」の指導ができる体制はできているが、取り組みの質の格差が大きい。 ・新2年生は1年生の段階から週1ペースで基礎学力テストを実施、一定の効果が得られている。 			<p>(1) 感染症対策は、かなり定着性している。今年度も気を緩めることなく継続が必要。昨年度の歯科治療率は52.3%と50%を上回ることができた。</p> <p>(2) これまでもアクティブラーニングの視点で防災・避難訓練を実施してきた。昨年度は、防災・避難訓練で使用したワークシートを持ち帰らせ、保護者にコメントを求めた。家庭でも防災について話し合いができた様子が伺えた。</p> <p>(3) 昨年度の学校自己評価アンケート（生徒）の「ゴミの分別・清掃・美化活動」という項目では、肯定が90%を超えている（R3：93.3%）。今年度も維持できるよう、校内美化について意識して実施する必要がある。</p> <p>(4) SCへの保護者・生徒の利用は常に多い。SSWの巡回相談時の利用ケースも増え、連携もできている。</p>	
具体的計画	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートの基本的事項について全教員で共通理解を図る。 ・キャリア・パスポートの様式は原則全学年で統一し、学期間・学年間の比較が行いやすいようにする。（中学校から送られてくるものとの連携も意識する） ・進路LHR等を活用し、キャリア・パスポートを作成することが目的とならないよう、常に自己のキャリア形成につながっていることを意識できる環境をつくる。 ・面接週間に担任との面談に加え、進路指導課による面談を実施し、生徒の状況把握に努める。 ・基礎力診断テストや実力診断テストにおける事前学習の取り組みの質の向上。 ・基礎学力テスト（進路テスト）のPDCAサイクルの確立。 			<p>(1) 感染症対策は、職員会議で共通理解をはかり、学校全体で実施する。歯科検診の結果、受診が必要な生徒へは、受診後・夏懇談・2学期中に受診の案内をする。</p> <p>(2) 昨年度までの取り組みを踏襲しつつ、本年度は地域住民との連携した防災訓練の実施を目指す。</p> <p>(3) 環境整備委員会だよりで現状報告・改善提案をおこなう。生徒・教員へ環境美化に関する現状アンケートを実施する。</p> <p>(4) スクールカウンセリング(15回)を予定し、該当担任団との情報共有・連携に努める。1年生にはHyper-Qu(5月・10月)を2回実施し、問題を抱える生徒には面談をし、素早く対応する。また、教員研修を1回以上実施し、知識と対応力を向上させる。特別支援委員会を開き、必要に応じてケース会議を実施する。</p>	
今年度の達成基準	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価アンケート（生徒）「学校は、基礎力・実力診断テストを活用し、基礎学力の定着や学習意欲の向上するよう取り組んでいると感じる。」という項目の肯定的割合が90%以上となった。（R3年度は89.5%） ・学校自己評価アンケート（生徒）「自分は、キャリアパスポート（小学校から高校までキャリアに関する活動について記入・保管するポートフォリオ）を活用し、進路実現に役立っていると感じる。」という項目の肯定的割合が75%以上となった。（R3年度は70.5%） 			<p>(1) 感染症対策は、学校教育診断（生徒）「学校は、清掃の徹底や消毒タイム等の指導を通して、健康・安全な環境づくりに努めていると感じる。」で肯定が90%以上となった。歯科治療率が60%以上（昨年52.3%）となった。</p> <p>(2) 危機管理・防災意識が高まった生徒が90%以上。（独自アンケートによる）</p> <p>(3) 安心・安全・快適な環境が整う。学校教育診断（生徒）の「ゴミの分別・清掃・美化活動」項目で肯定が90%以上となった。</p> <p>(4) スクールカウンセリングを15回実施できた。Hyper-Qu（5月・10月）を2回実施し、教員間で情報共有できた。</p>	
中間達成状況と改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価アンケート（生徒）「学校は、基礎力・実力診断テストを活用し、基礎学力の定着や学習意欲の向上するよう取り組んでいると感じる。」という項目の中間期における肯定的割合は92%であった。（R3年度最終は89.5%） ・学校自己評価アンケート（生徒）「自分は、キャリアパスポート（小学校から高校までキャリアに関する活動について記入・保管するポートフォリオ）を活用し、進路実現に役立っていると感じる。」という項目の中間期における肯定的割合は76%であった。（R3年度最終は70.5%） 	B	<p>(1) 感染症対策は、2学期以降も継続する必要がある。現在の歯科治療率は15%。今後もクラス担任と連携して治療を呼びかけていきたい。</p> <p>(2) 東苫田地区合同防災訓練に6名の生徒が参加した。11月の防災・避難訓練では参加生徒を核として計画を練りたい。</p> <p>(3) 環境整備委員だけでなく、学校全体で快適な環境を目指した清掃活動が行われている。不定期でゴミ処理方法の要領を提示し、環境整備に努めている。</p> <p>(4) スクールカウンセリングは予定通り実施（6/15回）しており、該当担任団との情報共有・連携に努めている。Hyper-Quも5月に1回目を実施済みであり、6月末の学年団会議の折に説明会を実施した。</p>		B
最終達成状況と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストや実力診断テストに向けた事前事後指導にはまだ改善の余地がある。特に事前学習の取り組みの質向上が必要だと考えている。学校自己評価アンケート（生徒）「学校は、基礎力・実力診断テストを活用し、基礎学力の定着や学習意欲の向上するよう取り組んでいると感じる。」という項目の肯定的割合は90%であった（R3年度最終は89.5%）が、基礎学力向上という結果につながっていない。 ・キャリア・パスポートの様式を全学年で統一したが、他の振り返りのツールも多く存在するため、よりシンプルかつ効果的なツールの活用が必要である。学校自己評価アンケート（生徒）「自分は、キャリアパスポート（小学校から高校までキャリアに関する活動について記入・保管するポートフォリオ）を活用し、進路実現に役立っていると感じる。」という項目の肯定的割合は77%であった。（R3年度最終は70.5%）しかし、この数値ほどの効果は実感できていない。 	B	<p>(1) 感染症対策は、学校自己評価アンケート（生徒）「学校は、清掃の徹底や消毒タイム等の指導を通して、健康・安全な環境づくりに努めていると感じる。」で肯定が93%となり、90%以上となった。歯科治療率は、64.9%と60%以上（昨年52.3%）となった。</p> <p>(2) 防災訓練では、振り返りシートを自宅に持ち帰らせ保護者にコメントを記入してもらった。家庭でも防災についてコミュニケーションが深まった。危機管理・防災意識の高まりが生徒だけでなく保護者（地域）にも還元できた。</p> <p>(3) 普段のクラスのゴミの分別だけでなく、学校行事でも問題なく分別がされている。学校自己評価アンケート（生徒）「学校は、清掃の徹底や消毒タイム等の指導を見直して、健康・安全な環境づくりに努めている」で肯定が93%（前年94%）であり、昨年から引き続き90%以上であった。清掃強化週間を実施した。</p> <p>(4) スクールカウンセリングは予定通り実施（12/15回）しており、あと3回も実施できる見通しが立っている。また、生徒の問題について該当担任団との情報共有・連携を図れた。Hyper-Quも5月・10月に2回実施し、説明会でクラスの傾向や問題について協議した。教員研修は12月に本校SCを講師に1回実施できた。特別支援委員会については10月に3年生徒の件でケース会議を実施した。</p>		A
今後の課題	<p>基礎学力向上にしてもキャリア・パスポート等のツールの活用にしても、他の分掌との連携が必要不可欠である。基礎学力向上に向けたアセスメントの活用については、本校の実情に合う形で次年度大幅に変更する計画を考えている。</p> <p>また、キャリア・パスポートについては、他の振り返りツールとの重複部分を解消するなど、効率的かつ効果的な運用を検討する必要がある。自己管理力向上から進路実現・キャリアアップにつながる仕組みも考えたい。</p>			<p>(1) 感染症対策と学校教育活動の両立が今後ますます必要になる。必要な事と省略できる事を考えながら、実施していきたい。</p> <p>(2) 毎年内容を更新し、バイアスを取り除けるような訓練にしなければならない。</p> <p>(3) 学校行事だけでなく、いつも校内を清潔できれいに保てるよう、定期的に啓蒙を行っていきたい。</p> <p>(4) SC、SSWなどの外部支援員の対応をはじめ、業務が多岐にわたっており、有効にリソースが活用できていない。今後、緊急を要する困難な事例が出たときの対応や、教員研修の実施時期については工夫が必要である。</p>	

具体的な学校経営目標		①安心・安全な学校環境 自律性と規範意識を伸長させ、健やかに学校生活を過ごせることができる環境づくりを目指す		
		②地域との連携（連携強化） 特別活動、総合的な探究の時間、社会貢献・国際交流活動や部活動等を通して校内外との連携強化を図り、主体性、合意形成力や非認知能力の育成を目指す		
		③生きる力（学びの充実） 学びのメタ認知化と「主体的・対話的で深い学び」の推進を組織的な授業改善により、真に「自立した人間」に求められる学力を向上させるとともに、生徒が各自で見定めた進路の保障を目指す		
		○チーム津商 生徒の「伴走者」として寄り添い、ともに学ぶ教職員集団になることで、各課・科・学年団等の目標の効率的実現を目指す		
		1年団	2年団	3年団
今年度の具体的な目標	3年後の生徒の進路保障に向け、生徒一人ひとりの能力・状態に応じた個別最適化の学習支援体制を学年団で組織化し、実践すると同時に、自己管理能力を高め、自律性の伸長を図る。 ②・③	(1) 2年後の進路実現に向け、自律性の伸長を目指し、社会人として必要な自己管理能力の育成を図る。① (2) 総合的な探究の時間や特別活動を通して、主体的に考え、行動する力の育成を図るとともに、他者と協力し、チームで働く力の向上を目指す。②	学年団と各課の連携を密にし、生徒が自らの適性及び能力を見定めて進路選択を行えるようサポートし、進路実現100%を目指すとともに、卒業後を見据えて人間力の向上を目指す。②③○	
現状分析	・単位不認定となった生徒が数名いるなど、個別に指導しないと知識の定着がはかれなかったり、課題の提出ができなかったりといった生徒が入学してきている。学習指導カードで授業者が今後の助言をもらってまわる指導を行っているが、それに加えて個別指導を系統的に実施していかなければならない現状がある。 ・上位層を伸ばし国公立大学などに合格者を出すための3年後を見通した系統的・組織的働きかけが十分とは言えない。	(1) 令和3年度の生徒対象学校教育診断で「手帳を活用し自己管理能力の向上に努めている」と感じるの肯定的回答が45.5%にとどまった。手帳を自己管理に活用できている生徒とそうでない生徒に二極化している感がある。 (2) 素直な生徒が多い一方、言われたことはできるが言われたいとしない受け身な傾向が見受けられる生徒が一定数いる。また、合意形成したり、チームで働いたりする上で必要なソーシャルスキルが未熟な生徒も一部に見受けられる。	・2年次の進路希望調査において、進学85名、就職62名、未定2名、未提出8名という状況であり、進学・就職希望者の中にも方向性がはっきりと定まっていなかった生徒もいる。 ・1年次から続けている学年独自のアンケートでの ①「日頃から学校の規則や社会のルールやマナーを守っている」 ②「あいさつを積極的にしている」 肯定的な回答が1年次から2年次で減少している。 1年次(R2) 2年次(R3) ① 91.4% 89.9% ② 86.1% 73.8% ・令和3年度学校教育診断で「進路決定後も目標を持った学校生活を送れる環境であると感じる」の項目で肯定的な回答が89.6%であった。	
具体的計画	・手帳を使って目標設定や学習計画、学習時間などの記録をとらせ、計画的に学習に取り組ませる。 ・各考査前に勉強会や復習講座を開き、考査に向け準備する場を学年で設ける。 ・赤点保有者に対しては学習指導カードの他、教科担当者や連携し、学習の遅れを補填する個別指導の機会を設ける。 ・個別最適な進路指導が行えるよう、年に3回以上面談をする。面談前には学年団会議で進路希望に関する情報を共有し、すべての生徒に対して個々に応じた適切な助言、指導を行う。	(1) 手帳の活用例を示したり、定期考査の計画や目標設定、長期休業中の課題のとりまとめ等を手帳で行うよう促し、手帳を使う声掛け、仕掛けを継続的に行う。年度当初に再度使い方についての説明、学期に1回は活用例の提示等の仕掛けを行う。 (2) 特別活動や総合的な探究の時間で必要になる合意形成力や非認知能力を向上させるべく、SHRやLHRの時間を活用してソーシャルスキルアップのための活動を定期的に行う。 総合的な探究の時間では中間発表などを通して他者の意見等から自身の研究内容を客観的に見直し、深める機会を十分に確保し、研究の深まりを促す。	・進路テストについては、事前の目標、事後の振り返りが記入できるプリント、進路ノートの活用により取り組む機会を増やし、基礎学力の定着を図る。 ・進路実現やスキルアップのために、資格取得にも積極的に挑戦できるよう、必要に応じて学習会を実施するなど関係各所と連携し、生徒のモチベーションの維持を図る。 ・進路決定後は毎月活動報告書を提出させ、目標設定、振り返りをさせることで自らの生活を律していく一助とする。 ・昨年度、一昨年度同様にアンケートを実施し、年度比較を行うとともに、1年間の変容を把握する。 ・進路実現に向けて、進路指導課と情報共有を密に行うとともに、面接週間やLHRの時間を有効に使い、生徒一人ひとりに寄り添い、適切なアドバイスを行う。	
今年度の達成基準	・年度末の手帳利用に関するアンケートの「手帳を使い始めて意識や行動に変化があったか」の問いに対する回答で「以前と変わらない」が20%以下。 ・年3回以上生徒面談が実施され、学校自己評価アンケート（生徒）で「先生に将来の進路や生き方について相談できる環境が整っていると感じる」という項目の肯定的回答が75%以上。	(1) 学校自己評価アンケート（生徒）で、「手帳を活用し自己管理の必要性を理解している」もしくは、「手帳を活用し自己管理能力の向上に努めている」と感じるいずれかの肯定的回答が70%以上となった。 (2) 年度末等に特別活動や総合的な探究の時間に関するアンケート調査を実施し、「主体的に考え、行動できた」、「チームで協力して活動できた」の肯定的回答が80%以上となった。	・進路実現100% ・進路テストの平均点75点以上 ・1年間で資格を1つ以上取得した生徒が100名以上 ・学年独自アンケート ①「日頃から学校の規則や社会のルールやマナーを守っている」 ②「あいさつを積極的にしている」 の項目で肯定的な回答が1年次の数値を上回っている。 ・学校自己評価アンケート（生徒） 「進路決定後も目標を持った学校生活を送れる環境であると感じる」・・・肯定的な回答が90%以上	
中間達成状況と改善点	・自己管理能力の向上と自律性を高めるため手帳の活用を奨励しているが、学校自己評価アンケート（生徒）のなかの「手帳を活用し自己管理能力の向上に努めている」という項目について肯定的回答は54%であり、目標よりも低い数字であった。手帳活用を機会あるごとに奨励していきたい。 1学期末における成績不振者は8名で、うち3名は長欠が影響した成績不振である。個人面談の実施、手帳の活用による自己管理向上などをはかり成績不振者のみならず全生徒の学力向上を図っていききたい。 個別最適な進路指導に向け担任面談以外に学年主任も面談を実施し進路実現に向けて援助していきたい。	B (1) 1学期末の自己振り返りに設けた「手帳を使って予定や課題などの自己管理ができている」の項目に対し、「よくできている」、「まあまあできている」と回答した生徒の割合は33%、「どちらともいえない」が22%であった。今回は振り返りなので「できているか」という厳しめの表現であり達成基準とは若干違いますが、継続的な指導に加えて何らかの働きかけをしていく必要があると思われる。 (2) 総探では夏季休業中には自分たちで考えた調査活動（インタビュー、アンケート等）を自分たちでアポを取り、実施した。今後その結果分析やさらなる調査研究を進め、10月の中間発表でしっかり質疑応答をさせ、思考を深められるようにしていきたいと考えている。定期的にグループへの貢献度や主体性を振り返る機会を設けて、その意識を持たせ続けていく働きかけをしていきたい。	B ・進路テストについては、平均60.2点(全19回)で目標達成に至らなかった。また、昨年度の69.8点と比べても大幅に下がっている。進路指導課と連携して、学力向上につながり、意欲的に取り組める仕掛けづくりを考えていく必要があると感じる。 ・資格を1つ以上取得した生徒は現在41名。積極的に資格取得にチャレンジしてくれている。引き続き資格取得を促すと同時に、生徒のスキルアップに向けてしっかりサポートしていく。 ・1学期末に行った学年独自アンケートにおける上記①の項目で肯定的な回答が91.4%、②の項目で肯定的な回答が87.5%であり、1年次以上の数値となっている。この結果からも進路実現の年という自覚をもって行動している様子がかがえる。進路実現後も見据えて、引き続き声掛けを行っていく。 ・中間期の生徒対象の学校自己評価アンケートにおいて、「進路決定後も目標を持った学校生活を送れる環境であると感じる」は未調査であった。	
最終達成状況と評価	・学校自己評価アンケート（生徒）「自分は手帳を活用し自己管理能力の向上に努めている」の回答において「はい、そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合は61.7%であった。2年生は57.6%、3年生は41.6%で相対的には活用できている。 個別最適な進路指導については個別面談を2回実施した。11月からスタディサプリを試験的に導入し、学力に応じた課題を生徒個人に配信し基礎学力の定着をはかった。	B (1) R4学校自己評価アンケート「自分は手帳を活用し自己管理能力の向上に努めている」で「そう思う・概ねそう思う」の回答が2年生では58%であり中間期の数値と変化なく、目標に約1割及ばなかった。継続的な声掛け等の指導に留め自発的活用を促した現状のやり方では、意識の低い約半数の生徒の変化を促すには十分ではなかったと考えられる。 (2) R4学校自己評価アンケートで「自分は特別活動・総合的な探究の時間・社会貢献活動が人間力の向上につながっている」で「そう思う・概ねそう思う」合わせて91%と高いものであった。総合的な探究の時間に関する学年独自のアンケートで、「主体的に考えることができた」の肯定的回答が99.2%、「主体的に行動できた」は94.6%、「協力して活動できた」が99.2%と達成基準に到達することができた。	B ・進路決定率約99%（3/1現在）。入学時からコロナによる制限もあり様々な経験ができなかったが、進路実現に向けてできることに一生懸命に取り組み、生徒、保護者、教員が連携した結果であると考えられる。 ・2学期終了時点で資格を1つ以上取得した生徒は91名。挑戦はするが成果につながらないという生徒もいるが、3学期も検定に挑戦するなど、最後までスキルアップに努めている。全商検定については1級1種目以上取得者は約84%となっている。 ・2学期末の振り返りに関して、学年独自アンケート①の項目で肯定的な回答が94.2%、②の項目で肯定的な回答が82.0%であった。1年次と比べて、①の項目は上昇、②の項目は減少という結果となった。 ・生徒対象の学校自己評価アンケートにおいて、「進路決定後も目標を持った学校生活を送れる環境であると感じる」の項目で肯定的な回答が93%であり、昨年度の90%を上回る結果となった。「月例報告書」だけでなく、担任の先生方のクラス雰囲気づくりや日々の声掛けの成果であると考えられる。	
今後の課題	自己管理能力の向上をはかるには手帳を活用して3点固定の習慣化・スケジュールの管理などをはかることがよう方法だと考えてきたが、他の手段や方法など模索して実践させることを研究しなければならない。	手帳を活用しての自己管理能力向上に対しては継続的指導により意識を持った生徒は増えてきている一方、意識の低い生徒の変化をもたらすにはより積極的な働きかけが必要であり、ある程度強制的に使わせる環境を作る指導が効果的ではないかと考える。総探やLHR、特別活動などを通してソーシャルスキルや協働性、自主性を身に付けさせる意識を持って指導してきたが、今後も学年に応じて求められるレベルが上がるのでそれを生徒にも自覚させ、意識をもって活動に取り組み、自身の成長を振り返らせることを継続的に行っていきたい。	学校自己評価アンケートの「進路決定後も目標を持った学校生活を送れる環境であると感じる」の項目の数値はよくなってはいるが、実際の活動等から考えると、進路決定後に遅刻・欠席が増える生徒が多かった。これについては今後もどう改善していくか考えていく必要がある。進路決定は目標であって最終ゴールではないということを理解させたうえで、卒業後を見据えた明確な目標を持って学校生活を送らせるための仕掛けが必要であると考えられる。	

<p>具体的な学校経営目標</p>	<p>①安心・安全な学校環境 自律性と規範意識を伸ばさせ、健やかに学校生活を過ごせることができる環境づくりを目指す</p> <p>②地域との連携（連携強化） 特別活動、総合的な探究の時間、社会貢献・国際交流活動や部活動等を通して校内外との連携強化を図り、主体性、合意形成力や非認知能力の育成を目指す</p> <p>③生きる力（学びの充実） 学びのメタ認知化と「主体的・対話的で深い学び」の推進を組織的な授業改善により、真に「自立した人間」に求められる学力を向上させるとともに、生徒が各自で見定めた進路の保障を目指す</p> <p>○チーム津商 生徒の「伴走者」として寄り添い、ともに学ぶ教職員集団になることで、各課・科・学年団等の目標の効率的実現を目指す</p>	
	<p>商業科</p>	<p>学力向上委員会</p>
<p>今年度の目標</p>	<p>(1) 地域の産業界、同窓会、PTA等と協働する津商モールの開催②</p> <p>(2) 新教育課程実施に向けた探究学習、地域・企業と連携した授業の実践②③</p>	<p>(1) 新学習指導要領を踏まえた、わかる授業、津商授業3（津商型学習のスタンダード）の実践③</p> <p>(2) Wi-Fiと1人1台端末環境を積極的に活用した授業の推進③</p>
<p>現状分析</p>	<p>(1)-ア コロナ禍ではありながら津商モールをはじめ、オリジナルブレンドコーヒーの開発やそろばん教室、プログラミング教室など地域の方と協働した取り組みを行うことができた。また新聞やテレビを通じて生徒の活動を地域の方と共有する機会も多く、津山地域外の方にも活動を知っていただくことができた。学校教育診断で「津商モールや総合的な探究の時間等を通して保護者や地域と連携した指導に努めている」の肯定的評価は生徒：94.4%、保護者：93.6%、教員：95.0%と高い結果となった。</p> <p>-イ 津商モールは途中からネット販売に方向転換したため、対面販売における感染症対策についての取り組みはできなかった。しかし、ネット販売によって、商品知識の不足など今まで課題であった部分に重点的に取り組むことができたといった成果もあった。</p> <p>(2)-ア シラバスの作成や指導方法・評価の研究について教務課と連携しながらを進めていくことができた。</p>	<p>○学校自己評価アンケートの「津商授業3（目標明示・主体的学習活動・振り返り）」の取組を活かし、授業の工夫改善に取り組んでいる」という項目に対し教員は97.6%の肯定的な意見に対し、生徒は90.6%と若干の差がみられる。授業評価アンケートについても同様の数値である。</p> <p>○1人1台端末やフューチャーラーム、大型提示装置などのICT環境は整いつつあるが、学校自己評価アンケートの「wi-fiと1人1台端末環境を積極的に活用した授業を行っている」という項目に対し教員の肯定的な意見が77.5%と、効果的な活用については研究の余地がある。</p> <p>○学習評価アンケートより「予習・復習を自分でしている」・・・55.6%</p>
<p>具体的計画</p>	<p>(1)-ア 津商モール開催に向け、校内体制を確立し、関係機関との連携、地域の産業界との協働体制を構築し取り組む。</p> <p>-イ 教科、特別活動と往還し、^{sp}イラキア教育（ルブリック評価）を確立する。</p> <p>(2)-ア 社会人講師やフィールドワークを通して、ビジネスシーンを想定した授業を行い、自分が何をすべきか、何をすることができるか考えを深める。</p> <p>-イ 情報処理科目群等の時間を利用し、インターネットモラルに関して学ぶ時間を定期的に設ける。</p> <p>-ウ 生徒自らが学ぶ意欲を育む方法として、お互いのリフレクションシートを共有する</p>	<p>○新学習指導要領を踏まえ、わかる授業、「津商の授業3」を実践し、授業改善に取り組む。</p> <p>○1人1台端末を取り入れた「津商の授業3」の改訂を行う。</p> <p>(1)-ア 公開授業週間等に授業（新課程の授業・1人1台端末を活用した授業）を公開し、教員が互いに学び合いながら、指導方法や指導体制の工夫改善を行う</p> <p>-イ わかる授業の実践（ICT活用・インクルーシブ教育・個別最適な学び・協働的な学び）に向け、実践例の紹介や共有を図る。</p> <p>-ウ 地域理解を進める方法として、各教科で地域を教材化する。</p> <p>-エ 第7回津商型学習指導研修会をおこない、学力向上につながる研究を行う。</p> <p>(2)-ア 1人1台端末を利用した実践事例を各科目で一つ以上挙げる。</p>
<p>今年度の達成基準</p>	<p>(1) 生徒の自己評価ルブリックで、8割の項目がA評価を得ている A 6割の項目がA評価を得ている B</p> <p>(2)-ア 社会人講師や地域での活動を活動に伴う授業を各学年複数回実施する。A 1回実施する B</p> <p>-イ 各科目の中で、学びをまとめたり、発表したりする授業を行い、津商プレゼンルールの達成度が各学年8割である A 6割 B</p> <p>-ウ 教科指導で日常的にICTを利用している 8割以上A、6割以上B、以下C</p>	<p>○学校自己評価アンケート（生徒）の「津商授業3（目標明示・主体的学習活動・振り返り）」の取組を活かし、授業の工夫改善に取り組んでいる」という項目で否定的な意見が10%を下回る。</p> <p>○全員が1人1台端末を持つ次年度に向けて改定した「津商の授業3」ができる。</p> <p>○教員1人当たり3回以上授業を見学することができた。</p> <p>○月に1回、実践例の紹介や共有をすることができた。</p> <p>●各教科の複数の教員が公開授業を行う。 A 同一人が行う B</p> <p>●すべての科目で実践事例の報告ができる。B 2回以上の科目が半数以上。A 学校情報化認定チェックリストより</p> <p>●授業の準備と評価のためにICTを活用している。 80%以上A、60%以上B、以下C</p> <p>●教科等の指導に日常的にICTを利用している。 80%以上A、60%以上B、以下C</p>
<p>中間改善点状況と</p>	<p>(1)-ア 津山市産業経済部や津山商工会議所等との連携しながら津商モールの準備を進めている。</p> <p>(2)-ア 商品開発や課題研究ではフィールドワークを通して、ビジネスシーンを想定した授業を行うことができた。2年ぶりの対外行事であり、生徒は新鮮に感じたようである。学ぶことは大いにあった。</p> <p>-イ 1年生「情報処理」では、インターネットモラルに関して学ぶ時間を定期的に設けている。</p>	<p>○生徒に対する授業評価アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生は「本時の目標」をはっきり明示している。 95.5% ・自分や班で考える時間がある。 88.3% ・授業の振り返りの時間がある。 84.3% ・もっと学んでみようという気持ちになった。 90.7% <p>○6月の公開授業週間では、1人3回の見学を促したが、十分ではなかった。</p>
<p>最終達成状況と評価</p>	<p>(1)-ア 生徒の主体性を育む校内体制を組織し、関係機関や地域の産業界との協働体制を構築し開催することができた。</p> <p>学年別自己評価レベル3以上と評価した生徒の割合80%以上</p> <p>1年・・・1/3項目 2年・・・0/3項目 3年・・・2/3項目 60%以上</p> <p>1年・・・3/3項目 2年・・・3/3項目 3年・・・3/3項目</p> <p>(2)-ア・学年別に社会人講師を迎えてマナー講座を実施し、コミュニケーション力を身に付ける必要性を学ぶとともに、津商モールで実践した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ビジネス科講演では、若手経営者の取組を聞くことで、自己と社会の双方についての多様な気づきを促す機会を得ることができた。 ・課題研究では、社会人講師を迎えたり、地域の中で活動したり、コンテストに参加するなど、自分が何をすべきか、何をすることができるか考えを深めることができた。 <p>-イ 生徒による授業評価アンケート「自分や班で発表する時間がある」82.8%</p> <p>-ウ Chrome bookを利用して、授業に取り組める場面がある。75.0%</p> <p>授業に熱意・ICT活用などの工夫を感じる。 89.6%</p>	<p>○学校自己評価アンケート（生徒）の「津商授業3（目標明示・主体的学習活動・振り返り）」の取組を活かし、授業の工夫改善に取り組んでいる」という項目で否定的な意見が10%を下回る。</p> <p>あまりそうは思わない 11%、そう思わない 2%</p> <p>○全員が1人1台端末を持つ次年度に向けて改定した「津商の授業3」ができる。改定は完了していないが、主体的な学習や振り返りの例示に1人1台端末の利用例を加えることとした。</p> <p>○教員1人当たり3回以上授業を見学することができた。</p> <p>各教科ごとで公開授業を実施、お互いに見学した。</p> <p>○月に1回、実践例の紹介や共有をすることができた。</p> <p>学期に1回の紹介にとどまった。地域の内容を教材に含めた。</p> <p>●各教科の複数の教員が公開授業を行う。</p> <p>商業科・地歴・数学・英語科は複数名おこなったが、他教科は1人とどまった。</p> <p>●すべての教科で実践事例の報告ができる。 3学期分を加えて達成。</p> <p>●1人1台端末を活用した学びの変容アンケートより</p> <p>教員対象「普段、授業でどの程度端末を利用していますか」授業で活用している 87.5%</p> <p>生徒対象「普段、授業でどの程度端末を利用していますか」1日1回以上 92.6%</p>
<p>今後の課題</p>	<p>(1) 3年ぶりとなる津商モールは、各界の協力のおかげもあり開催にこぎつけることができたが、持続可能な活動になっていないことが浮き彫りになった。地域企業との連携を強化し、起業家精神を育成するプログラムに変えていかなければならない。</p> <p>(2) 生徒授業アンケートでは95%以上が「授業の目標をおおむね達成できている。」80%以上が「授業を通して、新しい気づきがあったり、もっと学んでみようという気持ちになった。」と回答している。今後は生徒の学びを深めるべく、各科目において科学的な根拠に基づいて課題解決学習に取り組めるよう、一人一台端末を活用したビッグデータの分析などを取り入れた授業実践が課題である。</p> <p>・授業での一人一台端末の活用はすすんでいるが、予習・復習を行っている生徒の割合は低く、家庭学習の充実に結びついていない。生徒の自主的学習の習慣化の方策を考えなければならない。</p> <p>・新学習指導要領で求められている主体的な学習活動をすすめるための環境づくりが必要である。そのためにも私たち教師が普段から、授業の工夫や悩みについて語り合える雰囲気を作る必要がある。</p>	